

Revisiting the Fiscal Theory of Sovereign Risk from the DSGE View

名古屋市立大学 岡野衛士
名古屋市立大学 稲垣一之

本稿は名目価格の硬直性を仮定した動学的確率的一般均衡モデルを用いて 2 つの事実上のインフレ抑制政策、最適金融政策と最適金融・財政政策のソブリンリスクを伴う経済でのインフレ抑制とデフォルト回避のトレードオフについて検討した。最適金融政策の下では名目利子率のみが政策変数であり、最適金融・財政政策の下では名目利子率に加えて税率も政策変数として有効である。最適金融・財政政策の下ではインフレ率および GDP ギャップのボラティリティは最適金融政策の下でのそれらのボラティリティを下回るだけでなくそれぞれが完全に安定化された。加えて、デフォルト率のボラティリティは最適金融・財政政策の下では最適金融政策の下でのそれを 75%をも下回ることになった。したがって、Uribe 氏の「ソブリンリスクの財政理論」が提唱するインフレ抑制とデフォルト回避のトレードオフは必ずしも成立しない。